

【日本の大学】第91回—兵庫県立大学：統合効果生かし、知の創造に全力尽くす

兵庫県立大学は、兵庫県内にあった特色のある三つの県立大学を2004年に統合して発足した公立の総合大学である。本部は神戸市西区にあり、現在は6学部、9大学院研究科、5付属研究所のほか、附属中学校・付属高等学校を擁している。統合前の各大学の所在地の関係などから県内に九つのキャンパスを持っているため、合併後ほぼ20年たった現在でも、大学の一体性の面ではまだ、途上の段階にあるといえよう。

大学創立の基本目標としては、「統合による相乗効果と総合大学のもつ利点・特徴を最大限生かし、異分野間の融合を重視した教育と研究を行い、独創的・先駆的な研究を推進して『新しい知の創造』に全力を尽くすとともに、新しい時代の進展に対応しうる確固たる専門能力と幅広い教養とを兼ね備えた人間性豊かな人材の育成に努め、地域の発展と我が国の繁栄、ひいては世界・人類の幸せに貢献し得る大学となることを目指す」と謳っている。



姫路工学キャンパス工学部

3 県立大を2004年に統合

以下、兵庫県立大学のホームページを参照しながら、その歴史と現況をみていこう。

2004年に統合した県立の3大学は、神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学である。このうち神戸商科大学は、1929年、兵庫県立神戸高等商業学校として開校した。1948

年に全国初の公立新制大学として神戸商科大学となった。商経学部（経済学科、経営学科）1 学部で発足し、その後、大学院経営学研究科、経済学研究科（修士課程）、同博士課程を設置。国際商学科も増設（1980 年）したほか、1990 年に神戸研究学園都市に移転した。

姫路工業大学は、1944 年に兵庫県立高等工業高校として開校。1949 年に工業系単科大学の姫路工業大学が誕生した。県西部の姫路市に本部を置き、その後、学科を順次増設、1993 年には 8 学科の体制となった。1998 年には環境人間学部を設置、この間、大学院工学研究科も設置している。

兵庫県立看護大学は、1993 年に国公立としては初の看護系 4 年制単科大学として開学した。その後、大学院の修士課程、博士課程を設けたほか、2001 年には附属研究所推進センターを設けている。また、1995 年に発生した阪神・淡路大震災を契機に、災害看護学会を発足させている。



大学の歴史

以上の 3 大学を統合してできた兵庫県立大学は、3 大学の学部を継承して経済学部と経営学部（以上神戸商科大学）、工学部、理学部、環境人間学部（以上姫路工業大学）、看護学部（県立看護大学）の体制でスタートした。

現在は、経済学部、経営学部を統合・再編して2019年に誕生した国際商経学部と社会情報科学部と、工学部、理学部、環境人間学部、看護学部の6学部となっている。

県内各地に9キャンパス

本部は神戸商科大学の所在地であった神戸市西区学園西町を引き継いだ。キャンパスは本部の神戸商科キャンパス（経済学部、経営学部、経済・経営・会計の各研究科など）のほか、九つのキャンパスが県内各地に広がっている。県内東部には本部のほか、神戸情報科学キャンパス（神戸市中央区、応用情報科学研究科、シミュレーション学研究科）、明石看護キャンパス（明石市、看護学部、看護学研究科など）、神戸防災キャンパス（神戸市中央区、減災復興政策研究科）、対岸の淡路島には淡路緑景観キャンパス（淡路市、緑環境景観マネジメント研究科）が展開されている。

県の西部にあるのは、旧姫路工業大学の施設を継いだキャンパスが主で、姫路工学キャンパス（姫路市書写、工学部、工学研究科、理学部物質科学科・生命科学科）、姫路環境人間キャンパス（姫路市新在家本町、環境人間学部、環境人間学研究科）、播磨理学キャンパス（赤穂軍上郡町、理学部、物質理学研究科、生命理学研究科）がある。あと、県北部には豊岡ジオ・コウノトリキャンパス（豊岡市、地域資源マネジメント研究科など）がある。



播磨理学キャンパス

国際商経学部は、それまでの経済学、経営学を単独で学ぶだけでは解決できない問題が多く生まれており、そうした社会経済の急激な変化に対応できる人材を育成しようと 2019 年 4 月に誕生した。三つのコースに五つのプログラムを有している。

経済学コース、経営学コースのほか、グローバルビジネスコースがある。いずれのプログラムでも、経済学と経営学の両方の基礎を学ぶ。経済学と経営学のコースの入試は一括で行い、各コースへの配属は 2 年次の後期からとなっている。5 プログラムのうち、金融ファイナンスプログラムと社会イノベーションプログラムは、経済学と経営学の両方の専門科目を学ぶのが特徴。グローバルビジネスコースは、入学時からすべての科目を英語で学ぶため、定員と入試がほかのコースとは別になっている。同コースは、座学だけでなく寮生活や海外研修、インターンシップを経験し、留学生と切磋琢磨しながら、国際力を身につけていく。



神戸商科キャンパス情報科学研究棟

社会情報学部は 2019 年に発足。情報科学の確かな基礎知識と技能を身につけ、データ分析を通して社会的価値を創造する人材の育成を目的として開設された。ビッグデータを分析・活用し、経済動向の予測、社会政策の立案、企業における経営戦略・マーケティング・生産性向上などの分野で貢献する人材を育てていく。データサイエンス教育に理解のある企業や自治体から、社会の最前線で活躍する人材を講師に招き、職業ロールモデルやビジネスモデルを学ぶ機会を提供している。

工学部は、専門分野の融合化・複合化に対応するため、3 学科（電気電子情報工学科、機械・材料工学科、応用化学工学科）を設け、各工学科の中にそれぞれ 2 専門コースを設けて

いる。入学後、学びながら自分の適性に合った専門コースを選択できる。このほか、(1) 学部・大学院間の連携カリキュラムの構築を図っている(2) 国際感覚と倫理観の涵養・異文化理解の深化を図っている(3) 入学初年度から工学に対する興味、関心を啓発するとともに、就職指導の充実を実施している——などの特色を打ち出している。

理学部は、物質科学科、生命科学科の2学科で構成、「新しい構想に基づく、特徴ある理学部」を標榜し、先導的・創造的な基礎科学研究の推進と、それに対応し得る人材の育成を図っている。従来の数学、物理、化学、生物、地学といった学問の垣根にこだわることなく、広い視野に立った「学際的な教育と研究」を行っている。

環境人間学部は、人間を探究し、人が生きるために必要な環境はどうあるべきなのかなど、人間の暮らしと環境にアプローチすること目指している。五つの専門分野(人間形成系、国際文化系、社会デザイン系、環境デザイン系、食環境栄養課程)で構成され、いずれか一つを選んで専門性を身につけるとともに、ほかの専門も幅広く学びながら実社会を生きていくうえで必要な視野を養っていく。カリキュラムの特徴として(1) まず、人間を知るため基礎として人間学を学ぶ(2) 専門は入学後に決めてもいい(3) 教室を出て、地域で学ぶ(4) プロジェクトで実践力を磨く(5) 少人数ゼミで探究力を身につける(6) プレゼンで表現力と自信を手に入れる——を挙げている。

看護学部は、「ケアをもってケアの専門家を育てる」との教育方針を大切にしている。豊かな人間性を形成し、生命の尊厳を守るためには、学生自身が尊重され、勇気づけられ、自律的に学び実践すること、その力が発揮できることを自ら体験することが重要である。教員は、学生の気づきを大切に、根気よく対話しながら一緒に看護を考えていく。



看護学部の看護体験、看護見学

減災復興政策など特色ある大学院研究科

大学院は以上の各学部からつながる研究科やさらに細分化された研究科など九つの研究科を持っている。経済学と経営学を中心とした先端的な教育と研究を推進している社会科学研究科（経済学専攻、経営学専攻、グローバルビジネス専攻、会計専門職専攻、経営専門職専攻）のほか、工学研究科、理学研究科、環境人間研究科、看護学研究科は学部とつながっている。また、データ科学と計算科学を基盤に、健康医療科学や情報セキュリティの応用分野を網羅した4コースを持つ情報科学研究科。大地・自然・人間のつながりを地域（フィールド）から学び、地域の大事な資源として未来へ受け継ぐ手立てを考えることを目的とした地域資源マネジメント研究科。さらに緑環境景観マネジメント研究科は、都市や地域において緑環境による景観形成に関する具体的な知識、理論と技術力をもって、すぐれた景観をそなえ、安らぎと活力に満ち、自然と調和した緑豊かな都市や地域を、市民や公共団体、NPO法人などとともに実現を目指す。1995年に発生し、県内に大きな被害を及ぼした阪神・淡路大震災の経験と教訓などを踏まえて、防災・減災、復興を一体的にとらえて、安全で安心できる社会の持続的発展を目指した減災復興政策研究科は2017年に開設された。



人と防災未来センター

大学では所属学部の「主専攻」以外に、各自の学びの機会を広げるために、特定のテーマを設定し、学部を超えた三つの副専攻を設けている。「地域創生人材教育プログラム」（兵庫県やまちづくりに関心のある人）、「グローバルリーダー教育プログラム」（英語や海外に関心がある人）、「防災リーダープログラム」（防災や復興支援に関心がある人）である。所定の課程を修了すると、それぞれ「ひょうご学志」、「コミュニティ・プランナー・アソシエイト」、「防災リーダー」の称号を与えている。学際的、課題探究的な学びを深めることができ、学部の枠を超えた友人を得ることができるとしている。

国際交流の関係では、世界で活躍できるグローバル人材の育成を目指し、国際交流機構を設置している。機構では、学術交流協定の締結や語学研修を中心として様々な研修訪問団の派遣、グローバルリーダー教育プログラムなどを展開している。

海外の大学間協定締結校は16か国・地域の37大学、部局間協定は12か国・地域の17大学等と締結しており、学術交流、教育交流、交換留学生の派遣・受け入れなどを行っている。海外からの留学生は、中国、タイ、ベトナム、インドネシアなどアジアからを中心に、24か国から計211人を受け入れている。(2022年5月現在)

学生数は、学部が5412名、大学院は1139名の計6551名である。教員数は大学、大学院、研究所などを合わせて518名(うち女性117名)である。

現在の学長は、高坂誠氏である。京都大学文学部史学科現代史専攻卒、同志社大学大学院文学研究科新聞学専攻修士課程修了(文学博士)。1989年松坂大学政治経済学部専任講師・助教授、1993年兵庫県立神戸商科大学助教授となり、同教授、兵庫県立大学経営学部教授、同副学長、2021年兵庫県公立大学法人理事兼兵庫県立大学副学長となり、2023年4月から学長に就任。専門分野は国際政治学。

日文：滝川 進

写真：兵庫県立大学 HP